

## 障害者理解について学んだこと

中 三

二年生のとき、授業の中で手話講座・ブラインドウォーク・点字など、障害者に関わることを学びました。

ブラインドウォークでは、目を隠してペアの子に手を握ってもらい、実際に校内を歩きました。目が見えないだけで、バランス感覚が不安定になり、とても怖い思いをしました。この体験を通して、改めて目の不自由な人の大変さを学ぶことができました。

私が障害者理解の授業で一番心に残ったことは「点字」についてです。点字の授業では、実際に点字のついている製品を触ってみました。なかでも驚いたのは、お札にも、触って区別がつくように工夫されていたことです。こんなところにも、点字が利用されていることを知り、すごいなと思いました。点字のおかげで、目の不自由な人でも、手で触って理解し、ものを安心して安全に扱うことができます。視力に障害のある人にとって、点

字はなくてはならない存在だと思いました。また、そんな点字を開発した人にも関心をもちました。世の中には、点字を頼りに生活している人がたくさんいます。もし、点字がまだ開発されていなかったら、その人たちはどのように生活していたのでしょうか。とても大変なことだと思います。点字のおかげで、目の不自由な人でも、みんなと同じように生活することができます。点字に救われている人が、世界中にたくさんいます。そう思うと、点字を開発した人はすごいと思いました。この授業を通して、点字の大切さを実感することができました。

また、授業の中で先生の口から、「五体満足」という言葉を何度も耳にしました。私のおじいちゃん、左足の膝から下がありません。そのため、義足をつけて生活しています。今まであまり考えたことはなかったけれど、おじいちゃんも障害者の一人で、きつとたくさん大変な思いをしてきたんだらうなと思いました。おじいちゃんが今、みんなと同じように歩いて生活できるのは、義足があるからです。もし義足がなければ、本人も、それを支える家族も、とても大変だったと思います。

おじいちゃんも、私たち家族も、ずっと義足に支えられて生活してきました。おじいちゃんの義足は、私たち家族にとつて、とても大切な存在です。

点字や義足のような、障害のある人の生活に必要なものを開発してきた人たちはすごいと思います。そして尊敬する気持ちが生まれました。また、私自身、障害のある人の役に立つことをしたいと思うようになりました。

私の将来の夢は、特別支援学校の先生になることです。私には、脳の発達に障害のあるいところがあります。学校で、周りの子と同じように行動ができなかったり、友達とうまく接することができずにトラブルを起こしてしまったりすることがよくありました。きっと、本人もすごくストレスを感じたでしょうし、家族も大変そうでした。そんな様子をずっとそばで見えてきて、このような人たちの手助けをしたいなと思うようになりました。

私の目標は、障害のある子供たちを笑顔にすることです。点字や義足のおかげで、みんなと同じような生活ができるようになり、笑顔になった人が世界中にたくさんいると思います。私は、直接障害のある子供たちと関わり、笑顔にしたいです。

そして、その子供たちが大人になって社会に出たとき、みんなと同じように、のびのびと生活ができるようにしたいです。